

教育委員会だより

令和5年7月31日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

多治見の教育は、全国区！～文科省・調査官視察～

6月22日(水)、陶都中学校へ国立教育政策研究所の平田朝一 教育課程調査官(兼 文部科学省・教科調査官)と県教委関係者が視察に訪れました。『教育課程実践検証協力校』として美術(陶芸)の授業を参観後、授業者等との懇談も行われました。その中で、次のようなお褒めの言葉をいただくことができました。

「全小・中学校に窯があり、毎年粘土作品に取り組んでいるような所は他にない。」
「地場産業や伝統工芸に当たり前に触れることのできる教育環境が素晴らしい。」
「現代陶芸美術館との連携により単元の導入を行うという取り組みもよい。」
「陶芸講師を配置している効果もあり、子どもの作品の質が高い。」など

7月6日(木)には、同じく陶都中学校へ 山上 望 食育調査官と 齊藤るみ 学校給食調査官、女子栄養大学の金田雅代 名誉教授が視察に訪れました。奇跡的に岐阜の名産“鮎の塩焼き”が主菜の給食を試食後、配膳・喫食の様子、学級担任や学校栄養職員による食に関する指導の様子を参観いただきました。こちらも大変高い評価をいただき、山上調査官からは「全国に広めていきたい。」というお言葉もいただきました。

多治見市の教科教育・食育は、もはや全国区です?! 多治見にいれば“当たり前”のことでも、このように改めて評価していただけたことは、陶都中学校はじめ多治見市の学校全体の自信と誇りに繋がります。



熱い夏が戻ってきた！～中体連多治見市大会～

6月24・25日(土・日)に、中体連多治見市大会が開催されました。大変暑い日になりましたが、各競技会場では熱中症対策にも十分配慮した運営がなされていました。新型コロナの5類移行を受け、仲間の頑張りに声援を送る声、保護者のみなさんの熱心な応援の声も多く聞くことができました。生徒や教員、そし

て保護者のみなさんにとっても“熱い夏”が戻ってきました。

今年は、運動部活動地域移行への過渡期として、様々な形態での参加が認められました。学校部活動(学校に部がある)、複数校合同チーム(部のある学校同志)、拠点校部活動(部のない学校同士)、地域クラブとしての参加。参加の仕方は様々で、これから取り組んでいかなければならない課題もありました。

一方で、不変なものもあります。運動種目である以上、勝敗の結果を伴うということです。勝って歓声を上げる姿、負けて涙を流す姿を各会場で目にしました。カー杯の汗と声、満面の笑み、頬をつたう涙。どれをとっても若者らしいエネルギーに溢れていました。勝敗の結果を受け入れ、対戦相手に敬意を表すること(ノーサイドの精神)。勝っても負けても次なる目標を設定し、また一步踏み出すこと。そして、全ての経験を自身の人生の糧とすること。生徒たちにとってこの一瞬一瞬が貴重な経験になっていることを感じながら観戦しました。

基礎・基本の定着をめざして～夏休み算数学習会～

7月21日(金)から、算数の学習に課題を感じている児童へのサポートとして『夏休み算数学習会』がスタートしました。対象は、市内の小学2～6年生の希望者(61名)です。指導に当たるのは、教育支援員とICT教育推進員のみなさん。参加児童は、会場である昭和小学校体育館研修室(川南地域)と多治見市勤労者センター(川北地域)でタブレットを持参して学習に取り組んでいます。

8月25日までに14日の開講日があり、各自内容を選んで自主的に申し込みました。初の試みですが、少人数でとても丁寧に教えてもらえ、励ましや褒め言葉もたっぷり！一人でも多くの児童の「できた!」「わかった!」につながっていくことに期待をしています。



副教育長のひとりごと「挨拶をきっかけに」

7月3日(月)に、青少年まちづくり市民会議主催の『挨拶で絆の日』が行われました。私もある小学校の校門に立って、小学生と挨拶を交わしました。明るい表情で元気に挨拶してくれる児童が多く、清々しい気持ちになりました。

学校勤務の時、「挨拶+ひと言」を推奨していました。挨拶を交わすのは一往復で終わってしまいます。さらにどちらからひと言かける(天気の話でもTVの話題でも)と心が働く“会話”になります。挨拶をきっかけに会話をします。会話を心を通わせる。そんな姿を子どもたちの日常にしていきたいものです。